

第7章 どんぐりの観察

ねらい

私たちの身近なところに雑木林や社寺林などを秋に訪れるとどんぐり（堅果という）を見つけることができる。いろいろな種類のどんぐりを集め、形や大きさの違いやお皿（殻斗という）の違いなどに気づかせる。そして校区内のどんぐりマップを作らせる。

準備

ビニールの袋（2～3枚）、マジックペン、校区の地図。

方法

- 1) 校区内の雑木林や社寺林でどんぐりやお皿をひろってくる。ビニール袋にひろった場所をマジックペンで記入しておく。
- 2) どんぐりの種類分けをする。できれば植物名を調べる。

まとめ

- 1) ひろってきたどんぐりとお皿のスケッチをする。
- 2) どんな種類のどんぐりがあったかを話し合う。
- 3) 調べたどんぐりから校区の雑木林や社寺林のどんぐりマップを作る。

指導上の留意点

- 1) どんぐりだけでなくお皿も一緒にひろってくる。
- 2) どんぐりやお皿は必要なだけ（同じ種類のものであれば3個ぐらい）ひろってくる。

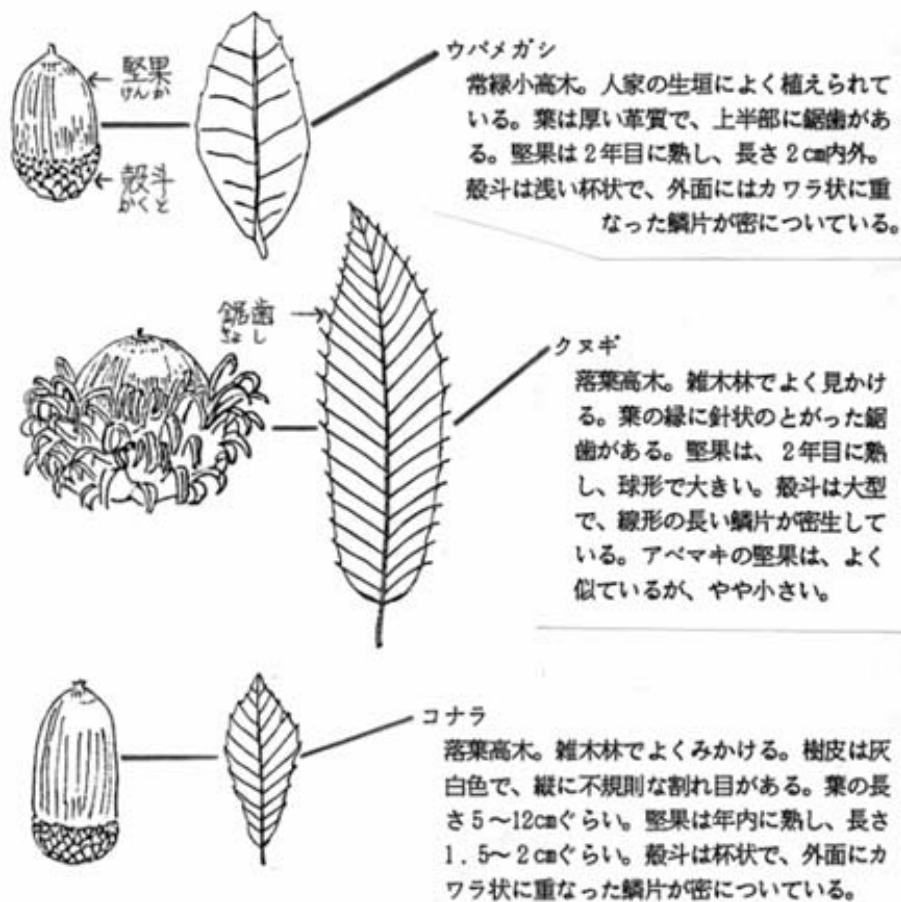
3) 家庭に植栽してあるものは、ここでは入れない。

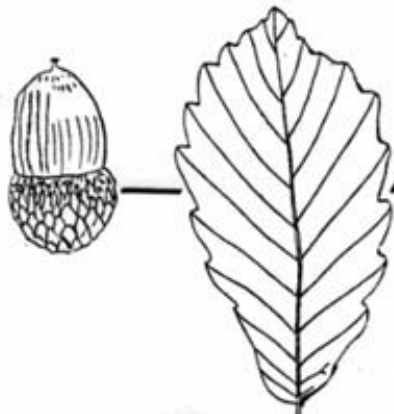
学習の発展

- 1) 人家の近くの山に雑木林が多くある。雑木林の活用などについて、お年寄りから聞きとりさせる。
- 2) どんぐりを使って遊ぶ方法を考えさせる（やじろべえやこまなど）。
- 3) どんぐりのできる植物の葉があれば集めてきて、葉の違いを観察させる。そしてスケッチもさせる。
- 4) ひろってきたどんぐりを植えて発芽の様子を観察させる。

参 考

おもなどんぐりの特徴





ナラガシワ

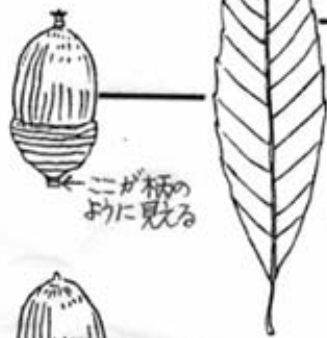
落葉高木。葉の裏に毛が密生し灰白色。葉の長さ12~30cm。堅果は、楕円形で長さ2cm内外で、年内に熟し、殼斗は杯状で外面にカワラ状に重なった鱗片が密につく。カシワは葉柄が短く、堅果はクヌギに似ている。



この先端部になだらかなくリブ線が見える

アラカシ

常緑高木。葉の上半部に鋸歯がある。葉の裏にはルーベで見える毛があり、灰白色。堅果は年内に熟し、長さ1.5~2cm。殼斗は、椀状で、鱗片が数層の環をつくる。



こが柄のよに見える

シラカシ

常緑高木。葉の上半部に鋸歯がある。葉の裏は緑白色ではじめ毛があるがのちに無毛となる。堅果の長さ1.5~1.8cmで年内に熟し、殼斗は椀状で、外面に6~8層の環がある。



マテバシイ

常緑高木。葉は厚い革質で、長さ9~26cmで全縁。堅果は1.5~2.5cmの長楕円形で翌年の秋に熟し、殼斗は椀状で外面にカワラ状に重なった鱗片がある。

どんぐりマップ° (例)
堺市大蓮公園

